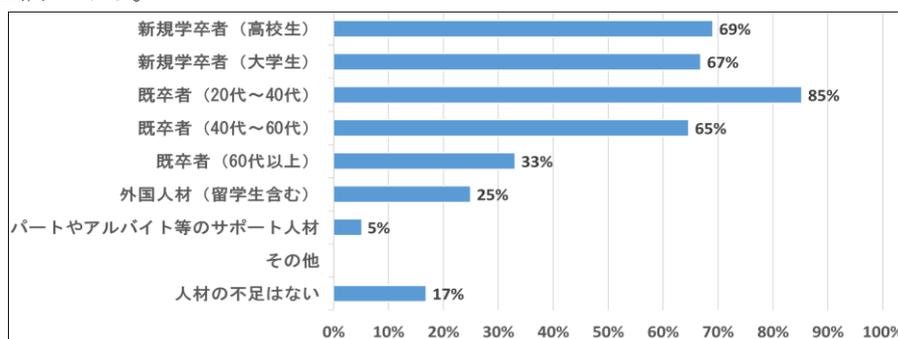


◆建設業 調査結果◆

問1:学生・既卒等の人材に関する質問(建設業)

問1 Q1: 貴社が求める人材の内訳は? 回答事業者数: 136/137

○既卒者、新規学卒者を問わず60代までの人材を全体的に希望している。一方で、外国人材は低調である。

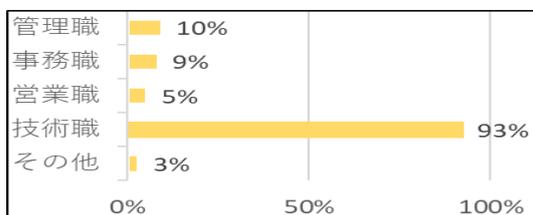


問1 Q1: 求める人材の職種の内訳は?

○全体的に技術職を求める傾向が強く、営業職として新規学卒者(大学生)から既卒者(20代~40代)を求める傾向となっている。

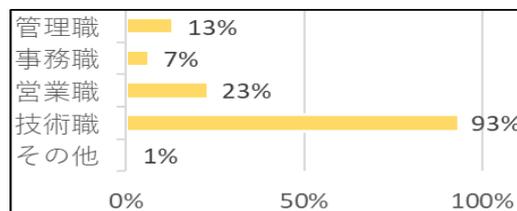
・新規学卒者(高校生)に求める職種

回答事業者数: 94/137



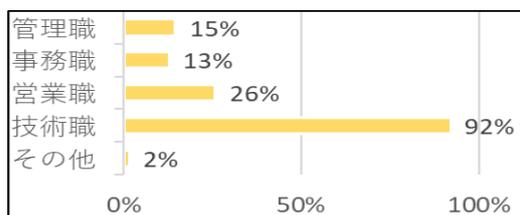
・新規学卒者(大学生)に求める職種

回答事業者数: 91/137



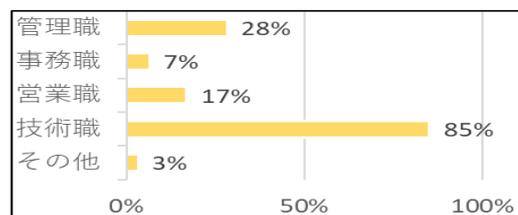
・既卒者(20代~40代)に求める職種

回答事業者数: 116/137



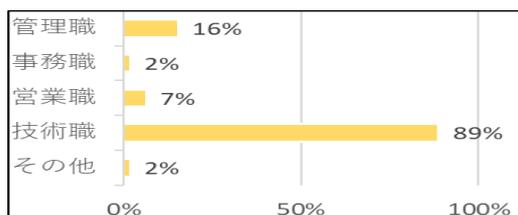
・既卒者(40代~60代)に求める職種

回答事業者数: 88/137



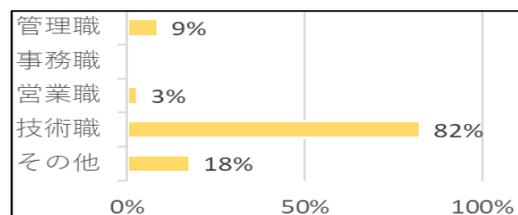
・既卒者(60代以上)に求める職種

回答事業者数: 45/137



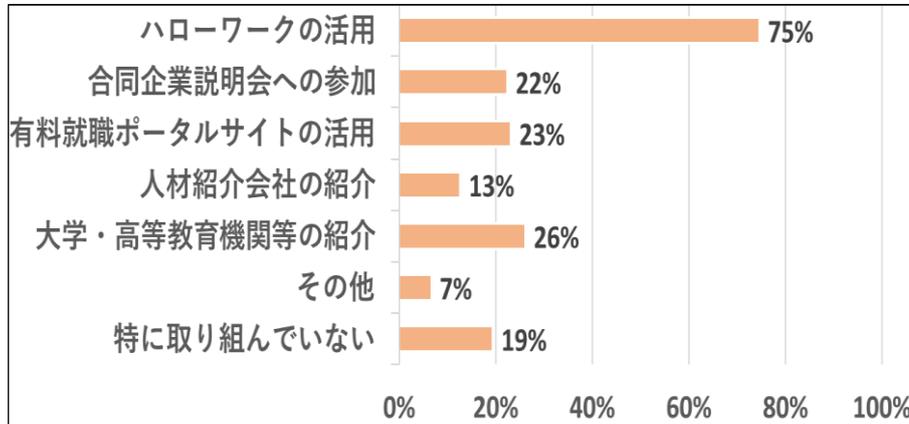
・外国人材(留学生含む)に求める職種

回答事業者数: 34/137



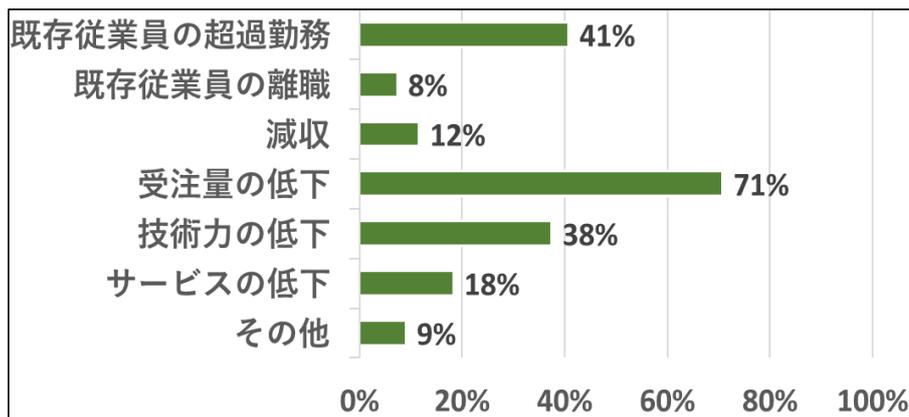
問 1Q2：求める人材を確保する為に取り組んでいることは？ 回答事業者数 134/137

○ハローワークの活用を中心に行っており、専門課程の学校からの紹介が次いでいる。



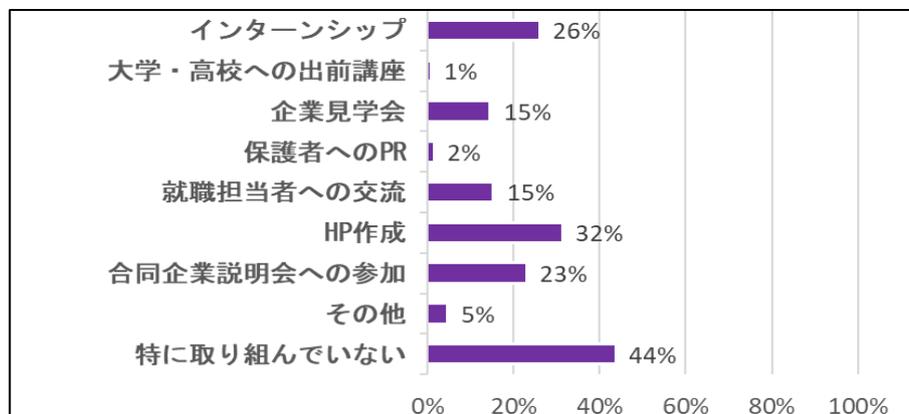
問 1Q3：人材の不足が業務にどのような支障をきたしますか？ 回答事業者数 120/137

○人材の不足が受注量に大きな影響を与えている。



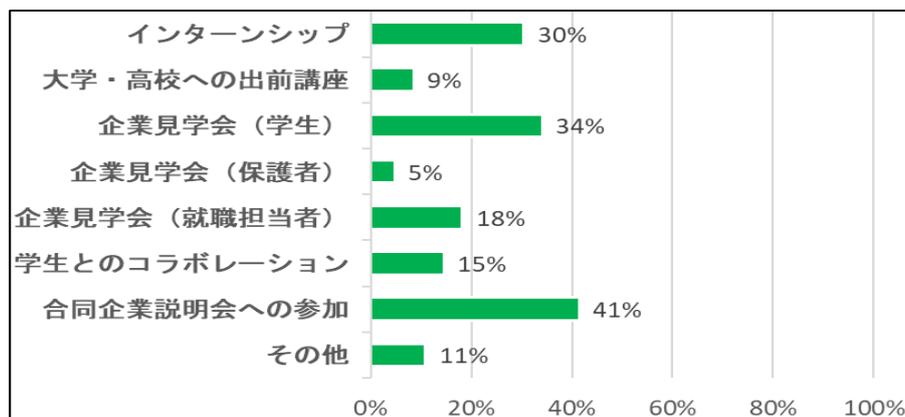
問 1Q4：自社 PR の為に取り組んでいることは？ 回答事業者数 130/137

○自社 PR に取り組んでいない事業者が多く、他の取り組みについても他業種より低かった。



問 1Q5：自社 PR の為に今後取り組みたいことは？ 回答事業者数 82/137

○合同企業説明会への参加、企業説明会（学生）、インターンシップを活用した自社 PR を目指す事業者が多くなっている。



問 2:外国人材(特定技能)・技能実習生に関する調査(建設業)

問 2Q1：技能実習生・特定技能・その他（留学生・エンジニアを含む）について、受け入れている人数は何人か？ 回答事業者 20/137

○ほとんどの事業者が5人以下の受け入れを行い、技能実習生の受け入れが現状最も多い。また、建設業全体の回答事業者数に対するこの設問の返信率は16%と低かった。

単位：者

受け入れ人数	現在（技能実習）	現在（特定技能）	現在（その他）
5人以下	14	4	1
6人～10人	0	0	0
11人～15人	0	0	0
16人以上	0	0	1

問 2Q1：技能実習生・特定技能・その他（留学生・エンジニアを含む）について、今後受け入れる予定の人数は何人か？ 回答事業者数 26/137

○技能実習生が15者、特定技能が7者、その他に4者が回答した。